

研究テーマ：基本的な英語の力（語彙・音読・内容理解）を定着させたい。普段の授業と家庭での学習をどのように結びつけて指導すればよいか。

所属 高知県立窪川高等学校

氏名 堤 千栄子

R G S H 8

1. 研究の背景

本校は1年生のみ習熟度別学習を行っており、習熟度 **A**、**B** の2クラスに分けている。対象クラスは、1年生習熟度別クラス **A** の英語 I の授業である。クラス **A** は習熟度で上のクラスである。（クラス **A** の人数は24名：男子7名、女子17名）落ち着いた授業に取り組めるクラスである。その反面、自分から発表する生徒に限られており、教師からの問いかけに特定の生徒が答える状況がある。そのため、生徒の発言を促すためには指名する必要がある。指名すれば答えが返ってくるが、自発的に考える、発表するという姿勢が少ない。

また、家庭での学習習慣が身に付いていないため、授業のために自分で調べ、家で勉強してくるということがなく、授業の中で理解したいと考えている生徒が多数である。

2. リサーチクエスト

基本的な英語の力（語彙・音読・内容理解）を定着させたい。そのためには普段の授業と家庭での学習をどのように結びつけて指導すればよいか。

3. 予備調査

(ア) 授業観察の結果

授業には、個人差はあるものの落ち着いた取り組みをしている。単語早調べや、全体での音読・ペアでの音読練習もよくできている。本文の内容把握には、ワークシートを用いている。ワークシートの形に慣れ始めると、配布後に自発的に取り組む生徒も出てきた。一方で後の答え合わせを待ち、自分で考えようとする生徒も出てきた。

(イ) 生徒の英語学習意識

習熟度分けテストを行った後（5月連休明け）に、英語に対するミニアンケートを実施した。

- ① 英語が・・・好きだ（4名） 普通（8名） 嫌いだ（12名）
- ② 英語は将来・・・[必ず・状況によっては] 必要だ（15名） 必要ない（9名）
- ③ 家庭学習時間・・・30分未満（19名） 1時間未満（2名） 1時間以上（0）

(ウ) 英語力を示すデータ

平成16年度学習支援テスト 平均点 校内平均 31.0 Aクラス平均 35.9

4. 仮説の設定

仮説1 ①宿題を出すと、それに取り組むために最低限の家庭学習をするだろう。ノートに写した本文を使用したタスクを授業の中で行うようにすれば、ノートを家で作成してくるのではないか。

②ペアワークで語彙シートを使用すれば家で調べ、空欄を埋めてくるのではないか。

仮説2 ワークシートを用いて、内容理解をすれば自分で考えようとするだろう。内容理解に用いるワークシートとは別に予習プリントを用意すれば、家での自学につながるのではないか。

- 仮説3 ①音読の回数を増やせば定着度が上がるのではないか。
②教師の後についてリピートする時に、スラッシュを入れるとかたまりを視覚的に意識するのではないか。
③英語→英語のリピート・シャドーイングだけでなく、日本語→英語のリピート・シャドーイングもさせることで、意味のかたまりを理解できるようになるのではないか。

5. 計画の実践

仮説1→ノートに写した本文を利用したタスクを加える。ノートチェック。語彙シートは前もって配布する。

仮説2→予習プリントを配布。[内容理解ワークシートとは別に]

仮説3→音読の時間を増やした。音読の際に、教科書にスラッシュを入れた。

英語→英語のリピート・シャドーイングに加え日本語→英語のリピートを入れた。

6. 実践の結果

仮説1→こまめなノートチェックと、ノート作成をしていないと授業の最後に行うタスクができなくなり困ることを理解させたことで、大半の生徒がノートを家庭で作成してくるようになった。

仮説2→予習プリントは、完成させてくる生徒とそうでない生徒に分かれてしまった。

仮説3→音読活動を増やしたことで、生徒が元気になった。全体・ペアでの英語→英語のリピートではどのペアもほぼ時間差なく終えることができるようになった。日本語→英語のリピートは競い合いながら答えるようになり活気が出た。

7. 結果の検証

仮説1では、ノート作成はしてくるようになり、家庭で机に向かう時間が少しは増えたのではないか。語彙シートは各セクションに1枚しかないため、毎日の学習にはつながらなかった。仮説2の予習プリントは、自発的に取組内容を理解しようとするものと、そうでないものに分かれてしまった。仮説3では、思ったより音読を楽しんでいる様子である。音読を授業のはじめの語彙チェック後に続けて行い、内容理解の終わった後、授業の最後の10分間(前後)を音読にあて回数を増やした。生徒は音読することに集中しているようだったため、意味のかたまりごとにスラッシュを入れ、目で意識し音読するように指示した。また英語を聞いて英語で繰り返したり、シャドーイングをするだけでなく、日本語で意味のかたまりを読み、それに対応する英語のかたまりを本文中から抜き出しながら読むタスクを増やした。そのタスクを繰り返すことで、意味のかたまりを意識しながら音読できるようになってきた。

8. 成果と今後の課題

今回のアクションリサーチでは、普段から気になっている自分の授業の問題点を直視して、改善しようと試みた。自分の授業を客観的に見ることができたと思う。同時にアンケート等を通じ、生徒の状態や意識を、以前より知ろうとする姿勢が自分に生まれた。生徒自身は英語が必要と感じながらも家庭学習には結びつかない、基礎的な力が十分身に付いていない。そこには自分の授業の進め方や、生徒に興味を持って活動をさせる方法などを勉強し続けることで改善できることがあると思う。今後も、自分の問題点を意識しながら授業・授業準備に臨みたいと思う。